



岡崎市立城北中学校 校長通信

校長室の窓から

～校訓 真面目・精一杯 自主・自律～

7号

令和6年2月16日

城北中学校長
山本 則夫

城北中を支える大きな力に感謝！

2月3日、テレビ愛知「千原ジュニアの愛知あたりまえワールド」の放送が始まるとメールやLINEに続々と連絡が入りました。「テレビ見ました！生徒の表情がいいですね」、「城北中の卒業生です。伝統の暁天かけ足は城北の誇りです！」、「60年も続いているなんて驚きです。これからも続けてください」、「私の中学時代もこんな行事があったらよかったなあ。城北中生がうらやましいです」・・・



予想以上の反響に職員一同、驚きました。正直に言うと放送前は、どのような編集をされ、どのようなコメントをされるか内心ドキドキでした。「昭和の教育」「時代錯誤」…ネガティブな言葉が頭をよぎりました。しかし、出演者はたいへん好意的に興味深く受け止めてくれました。とにかく出てくる子供たちの表情が生き生きとして最高でした。来校される他校の先生、保護者、地域の方、業者さんからたくさんの励ましの言葉をいただきました。今回の暁天かけ足が、たまたま脚光をあびましたが、これまで幾度も存続の危機を乗り越え継続してくれた先輩先生方、保護者、地域の皆様に感謝の思いで一杯です。

思い返せば、昨年6月、職員の不幸事が大きく報道され、生徒、保護者、学区の皆様にご心配をおかけしました。あれから職員一同、全ての教育活動に全力で取り組んで参りました。とくにコロナが終息をみせた本年度は全ての行事を見直し、生徒の笑顔あふれる企画を考えました。それぞれの行事に職員のおふれるアイデアとエネルギーが注がれました。私の自慢の生徒・職員の作り上げる行事は、たいへん内容の濃いものとなっています。PTAの方々にも全力でバックアップしていただき、行事はさらに盛り上がりを見せました。

一方、役職者は、先生方の努力と子供たちの生き生きした姿を保護者、学区の皆さんに伝える術を考えました。積極的な報道発表の結果、テレビ、ラジオ、新聞等のマスコミに取り上げられた数は市内の小中学校ではトップの30件を超えました。行事のライブ配信にも挑戦しています。まだまだ試行段階で不具合もあるかもしれませんが、改善していきます。



【中日新聞 3年生「逃走中」2/15】

今後とも温かいご支援・ご協力をよろしくお願い致します。